

大鹿村の山城⑤ ^{するぎ}駿木城

後醍醐天皇の皇子である宗良親王^{むねなが}は、大鹿村に拠点に移した当初は、博物館たより207号で紹介した大河原城に居たものの、後に、より奥地にある御所平^{ごしょだいら}に移ることになったそうです。そして、駿木城^{するぎ}は、御所平へ通じる道(図1)を監視するために築城されたと考えられています。城主は南朝方の忠臣・児島高德の息子、児島高春と言われています。

駿木城は、大河原城^{おおかわら}と同じく、緑色岩の地すべりによってできた緩斜面の縁辺部に位置しています。南と西は、比高200mの塩川の断崖となっており、天然の要害です(図2・図3)。崖下の塩川近くからは、古くから塩水が湧いており、この塩水を守ることも駿木城の役割だった可能性があります。

市村(1933)の調査報告によると、駿木城址周辺では、明治31年に墾起して水田への改変が行われたことや、第一郭の大部分が長年の塩川の侵食で崩落してしまったことなどから、当時の面影はほとんど残っていないとのことです。第一郭の東に、堀の跡と思われる凹地がわずかに残っていますが、地元の方は、この場所のことを「湯壺」と呼んでいたそうです。もしかしたら、ここで塩水を焚いて製塩をしていたのかもしれない。また、現在物見櫓が建てられている場所のすぐ隣が第二郭部分になりますが、地元の方は、この場所のことを馬場と呼んでいたそうです(図4)。(宮崎)



図1 諏訪・高遠方面から御所平までの道



図2 国道152号線木工館付近から駿木城方面を眺める

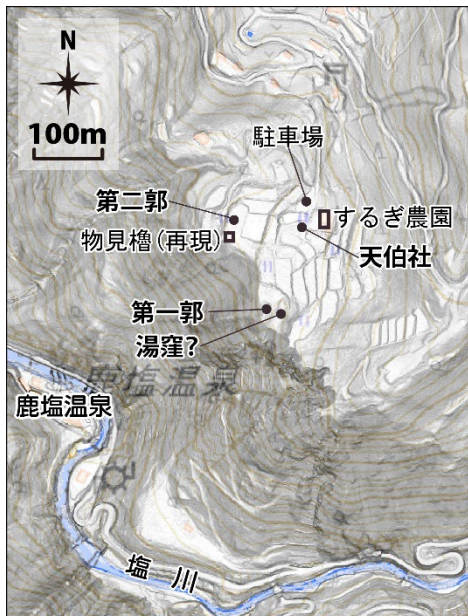


図3 駿木城の城郭とその周辺

QGISにて長野県砂防部の0.5mDEMをもとに傾斜量を算出した図を地理院地図と重ね合わせて背景に表示。色が濃いほど急傾斜で、色が薄いほど緩傾斜を示す。第一郭、第二郭、湯窪、天伯社の位置は、市村(1933)、宮坂(2013)を参考に記入。



図4 駿木城第二郭を東側から見る

◆参考文献

市村威人(1933) 史蹟名勝天然記念物調査報告 第拾四輯 長野県, p. 157-163.

宮坂武男(2013) 「信濃の山城と館〈第6巻〉諏訪・下伊那編—縄張図・断面図・鳥瞰図で見る」, 戎光祥出版, p. 453.

大鹿村誌編集委員会(1984) 「大鹿村誌 上巻」, p. 95-97.

高木秀雄先生(早稲田大学名誉教授)講演会 断層岩の変形年代からみた中央構造線の歴史

日時: 2026年11月1日(日) 10:30 ~ 15:00
(12:00 ~ 13:30 昼休み)

会場: 大鹿村交流センター ホール

参加費無料・事前申込不要

詳細は博物館ホームページをご覧ください!

主催: 大鹿村中央構造線博物館

TEL. 0265-39-2205

<https://mtl-muse.com>

共催: 大鹿村公民館

QRコードから
アクセス可



プログラム

◆午前の部(10:30-12:00)

1. 中央構造線とは?
- 1-1 対の変成帯: 領家帯と三波川帯
- 1-2 中央構造線はどこに走る?
2. 断層岩とは?
- 2-1 断層の断面像
- 2-2 脆性領域の断層岩類
- 2-3 延性領域の断層岩類
- 2-4 中央構造線沿いで様々な断層岩類が存在する理由

◆午後の部(13:30-15:00)

3. 中央構造線の歴史1: マイロナイト化
- 3-1 領家花崗岩類の放射性同位体年代
- 3-2 マイロナイトの原岩—古期領家花崗岩のシート状貫入
- 3-3 マイロナイト化のステージ: 鹿塩時階
4. 中央構造線の歴史2: 領家帯と三波川帯の接合
- 4-1 断層岩の年代測定
- 4-2 領家帯と三波川帯が接合したステージ: 市之川時階
- 4-3 40Ma 前後の脆性断層岩をつくった活動: 多気時階
- 4-4 中部地方に認められる MTL の活動: 赤石時階
- 4-5 15Ma の衝上運動: 砥部時階
- 4-6 日本海拡大後の巨大火成活動と南北伸張: 石鏡時階
- 4-7 活断層としての中央構造線: 新居浜時階

お弁当予約

農家カフェパウさんの
特製ハンバーグ弁当を
予約可能です!

金額: 1500 円

(当日現金払い)

申込先: 中央構造線博物館

(tel: 0265-39-2205)

申込締切:

2026年10月24日(土)